

【第1号議案】

事業報告書

自 2013年5月1日

至 2014年3月31日

法人名 一般社団法人 京都ボランティア協会

京都ボランティア協会2013年度事業報告

目次:

	前文	…1ページ	
<事業>			
	1 【ボランティアコーディネート事業】	…2ページ	【別添資料1】
	2 【援助・交流事業】	…3ページ	【別添資料2】
	3 【広報事業】	…4ページ	
	4 【研修事業】	…5ページ	
	5 【研究事業】	…6ページ	【別添資料3】
	6 【地域における社会福祉の推進事業】	…6ページ	【別添資料4】
	7 【事業を通じ社会福祉を推進する事業】	…7ページ	
	8 【企業・労働組合の社会貢献活動の推進】	…8ページ	
<組織・運営>			
	1 【組織・運営体制整備】	…9ページ	

<事業>

【1. ボランティアコーディネーター事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策
<p>ボランティアコーディネーターの実施</p> <p>在宅でのボランティア活動グループ活動(協会内外)</p> <p>通年・継続</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進</p> <p>・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流、ひいては社会貢献。</p> <p>・ボランティア登録者継続と増加を推進。特に在宅生活者の依頼に応える、寄り添うボランティアの増加をはかる。</p> <p>・相談業務等から見える生活・福祉ニーズの把握と分析。</p> <p>・地域資源の把握(新たなボランティア活動先、受入先の開拓など)</p>	<p>①ボランティア相談(ボランティア活動希望者およびボランティア依頼者からの相談)</p> <p>②ボランティア学習会・研修会等の実施</p> <p>③ボランティア登録者の増員と交流</p> <p>④ボランティアコーディネーター事業体制の整備</p> <p>⑤福祉ボランティアセンターとの連携</p> <p>⑥「きょうボラ」発行(年4～5回)</p> <p>⑦大学・地域等への事業紹介等広報活動の実施</p>	<p>・ボランティアコーディネーター相談等対応の実施/1390件、ボランティア相談の実施(団体活性化などの相談、ボランティア保険相談、講師派遣等)/295件</p> <p>→ボランティア活動希望者(登録者のこと)は97人で昨年度の114人より減少。新規登録者は35人(昨年度は29人)で微増。実際のボランティア活動に参加した人67人(昨年度71人)</p> <p>→ボランティア依頼者はほぼ横ばい87件(同111件)で、昨年マッチングできなかったボランティア依頼者の年度更新しなかったため、依頼者減少により件数も減った。</p> <p>【別添資料1】</p> <p>・ボランティア登録者交流はねこのてさろん(会員・登録Vとの交流)実施によってはかるうとした→参加者集め、新たなメンバー定着は今後も課題。</p> <p>・情報交換会議5回開催。協会内での情報共有の模索中、運営チームには至らず。</p> <p>・下京区の高齢者相談会(年2回)には参加させてもらった。また、ケアマネや相談員とのつながりができている依頼もある。</p> <p>・ボランティアセンターとは広報で協力、個別ケースで情報交換した依頼があった。</p> <p>・「きょうボラ」の5回発行各2000枚「ボラタス」と共に発送。また講座等の機会を捉え配布している。ボランティア活動希望者からはホームページをみて問合せをする人が多いが、一般的な「ボランティア」から幅広く問合せが入ってくるので、総合的な相談に対応するのは難しい場合もある。他機関との協力体制が今後益々必要だと思われる。</p> <p>・大学等への事業紹介活動の実施/華頂女子高やワタキューは研修の機会を捉え紹介しているが活動にすぐに結びつくわけではない。発信し続けることと発信内容(プログラム等)開発していく必要はある。</p>	<p><ボランティア登録者増></p> <p>・ねこのてさろん等との合同で講座などを開催し、身近なボランティア活動紹介(グループ含む)。</p> <p>・ちょっとプラスがある、学びや出会いがあるというお得感のある講座や遊びの部分のある気軽さ、知り合いを増やしていく機会のあるものを開催していく。</p> <p>・ボランティア登録会、あるいは相談会の開催。活動により「人と会う楽しさ」をボランティア依頼者や活動するボランティアの生の声を届ける機会を増やす。その場合の活動分野などは考察の必要あり。</p> <p>・ボランティア活動継続後の連絡等密にし活動者の声を発信する機会を増やしていく。ボランティア活動希望者(登録者)同士の交流機会をつくり、仲間づくりや支え合う機会ができないか。</p>

【2. 交流・援助事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果・課題	改善策								
<p>福祉ボランティアフェスタ 一部共同企画参加</p> <p>会場「ひと・まち交流館 京都」</p> <p>「きょうボラふれあい祭」企 画内容変更、運営、作業ボ ランティア募集！！</p> <p>通年・継続</p>	<p>・新たなボランティアスタッフの人材発掘と育成。 ・ボランティア、関係団体、企業その他との交 流、連携推進。 ・新たな活動の創造・発信。 ・ボランティア中心に、祭準備段階から企画・運 営を参加団体と事務局が連携強化して行う。</p>	<p>①ボランティアスタッフ等の募集と学習会</p> <p>②実行委員会の設置(企画・運営)</p> <p>③祭のホームページの管理</p> <p>④バザー物品、抽選物品の確保</p> <p>⑤広報の充実(パンフレット・ちらし他)</p>	<p>・ねこのてさろん等の行事等 への参加呼びかけは常時行 い、メンバーは一定数参加あ り。</p> <p>・委員会・準備委員会・振り返 りの会合計8回 毎月の実行委員会前にボラ ンティアスタッフ説明会を開催 した。</p> <p>・ボランティアが作成・管理で 各担当(市場等)や祭の楽し さをアピール・広報する。</p> <p>・物品の集まりは少なくなった が、会場の規模は狭くなり物 品も厳選して並べることがで きた。黄色いレシートキャン ペーン活動でのレシート金額 から得られた食料品や日用 雑貨の景品は毎年有難い。</p> <p>・フェスタちらしの配布枚数は 協会規模より大きいため配布 先を含め広く配布された。</p>	<p>規模は例年よりも小 さくなり、事務作業は 従来より減少した が、一部スタッフに 負担が重なった。 従来のメンバーで乗 り切ったが新たなメ ンバー定着には至ら なかった。</p> <p>学習会の必要性だけでなく実行委員メンバーの 興味から出てくるテーマを話し合う。</p> <p>メンバー定着と活動しやすさを考え、ボランティ アスタッフの参加しやすさをともに模索していく。</p> <p>※助成金等(順不同、敬称略)</p> <table border="0"> <tr> <td>黄色いレシート贈呈金</td> <td>59千円</td> </tr> <tr> <td>バザー・協力抽選券売上</td> <td>801千円</td> </tr> <tr> <td>寄付金(共同募金・ソロプチ・京都府)</td> <td>611千円</td> </tr> <tr> <td>ハーブコンサート参加協力金</td> <td>349千円</td> </tr> </table>	黄色いレシート贈呈金	59千円	バザー・協力抽選券売上	801千円	寄付金(共同募金・ソロプチ・京都府)	611千円	ハーブコンサート参加協力金	349千円
黄色いレシート贈呈金	59千円											
バザー・協力抽選券売上	801千円											
寄付金(共同募金・ソロプチ・京都府)	611千円											
ハーブコンサート参加協力金	349千円											

		<p>⑤福祉ボランティアフェスタ一部共同企画参加(きょうボラふれあい祭の開催は休止)。</p> <p>⑦祭記録・報告書の作成</p>	<p>・人場者数約1,000人。参加団体:模擬店数13店舗。前日準備・当日ボランティアのべ100人。天候が悪く集客ものびなかった。</p> <p>【別添資料2】</p>	
<p>地域を元気に! 癒しのハーブコンサート開催</p>	<p>「ひと・まち交流館 京都」大会議室</p>	<p>①一般社団法人移行記念事業 ②研究事業—高齢者と社会に不安を抱く若者と作る居場所作りの一環</p>	<p>・メンタルな病気を持つ若者の音楽活動の場の提供。 ・手作りのコンサートとして、京都新聞に掲載され参加協力者が多かった。 ・福祉活動を精力的にしているプロのハーブ奏者が応援出演してくれた。客席はほぼ満員(チケット完売)。</p>	
<p>サロン活動(ボランティアビューロ活性化) 「ねこのてさろん」の運営 通年・継続</p>	<p>・多様な興味や関心を持つ人たちとの交流を通じた「居場所」や仲間づくり。 ・多様なメニュー企画立案作りによる人材及び団体交流。 ・お互い様精神復活。 「ねこのてさろん」企画・運営ボランティア募集!!</p>	<p>①単発活動企画の年間計画法 ②居場所機能の活性化:メンバー募集、仲間作り ③活動グループ化、自主運営化</p>	<p>「年間を通じて「Tシャツでアート」という企画を開催。日頃協会に出入りする人以外の参加があった。習い事系のようなサロン活用で、学びという満足感と仲間づくりの小さな一端を担うことができた。囲碁・パソコン講座のように自主運営になってきたグループもでてきた。今後もインドア企画リサーチ、充実と参加者募集方法(広報)に課題がある。リーダー的な人材育成も考える必要がある。 のべ参加人数:463人 「ねこのて」に参加する利用者に「やりたいこと」など、アンケート調査をしているが「何をしたいかわからない」と回答が多く。事務局スタッフが企画し、呼びかけていくことが必要である。</p>	<p>最近メンタルな病気を抱えて参加する人が多く、普通の社会人の参加は少ない。この事業を継続するのなら、企画・提案するボランティアの養成が必要である。</p>
		④新規グループ作り		
<p>ウエスグループへの支援 継続 通年 月2回第2、4木曜他</p>	<p>・活動歴四半世紀以上27年近いグループであり、協会活動の支援者である。 ・メンバーの高齢化により、活動の継続を目的に支援する。</p>	<p>①ウエス作業支援(ウエス販売含む) ②自主的なミニバザーの実施支援 ③ウエスグループ&「よりあい」の場の充実 ④ウエスグループスタッフによる諸団体の啓発活動 への参加・協力・支援(共同募金他)</p>	<p>・月2回のウエス作業の実施。 ・他に青少年街頭活動等が積極的に行われている。 ・作業場所である大徳寺ボランティア協会分室ではご近所との交流もあり、「よりあい」の場も充実している。 ・2011年から京都市障害者スポーツセンターの「地域ふれあい感謝祭」に「Tシャツアート」で出店し、積極的に活動している。 ウエス売上147,180円(490kg)と前年比4.5倍の生産、ウエスの購入先も開拓した。 ・また、白川学園にも衣服や雑貨なども寄付し、月一回ウエス作業に向向している。</p>	<p>・ウエスグループのボランティアメンバー増員(2013年度1人)。 ・バザーでも古い衣料等は好まれないため、ゴミ削減につながるリサイクル活動を活発化させる。 ・京都市マーケット回収事業に障害の団体のボランティアとウエスメンバーが参加。 ・2013年はバザー出展先が減り、「Tシャツアート」などで出展し、アウトドア(ハーブ摘み取体験)新島謙旧邸・同志社キャンパスツアー(史跡ガイド)見学では世代交流を楽しんでいる。 ・高齢者の居場所作りとして大徳寺分室が京都市長寿福祉課に登録し、助成金の交付を受けている。 ・メンバーが現在14名。目的のある居場所として人気が高い。 ・高齢者が多いので、大徳寺分室を共同募金会の助成金で洋式トイレ、手すりなどバリアフリーに改築した。</p>

4

【3. 広報事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
「ボランティア」他広報事業	・「ボランティア」「きょうボラ」他媒体による情報提供と発信。 ・ホームページにて情報の公表を行い広く市民への広報活動。	「ボランティア」発行(年4~5回) 「きょうボラ」発行(年4~5回) ホームページ管理	年間3回(ふれあい祭特集がなかった・ハーブコンサートが新年号の合体) 年間4回 トップページなど画像にアニメーションを取り入れ新着情報など見やすいように変更した。 2014年度さらに広報拡大のため、ボランティアスタッフによるホームページのリニューアル	ボランティアに原稿依頼をしても断られる。投稿分が少ない。時間を作り、取材(インタビュー・アンケート)記事の記載を考えて見る。	ボランティアの記述するページを設け、思いやボランティアの啓発に挑戦できる機会をふやす。そしてアンケート調査を参考にする。

【4. 研修事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
華頂高等学校ボランティア講座への講師派遣 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">後期・継続</div>	・身近に行われているボランティア活動を学び、活動を通し気づき、共感する心を育む。 ・身近な地域の福祉活動や、高齢者・障害者・児童領域の現状を障害当事者や活動団体から学ぶ。	高校1年生全員90名を対象に「総合華頂探究」という総合学習の中に位置づけられている授業である。授業は後期11月から2月末まで11回である。内容は①ボランティア活動についてのガイダンス。②地域福祉、障害福祉、児童福祉領域から当事者・活動団体から現状や実践を聞き学ぶ。③支援技術として車椅子介助の実習、「語り部グループ」のボランティア活動、医療ケアを学んだ。授業はレポートにより評価されている。	講師陣には障害当事者、ユニークな活動をしているボランティア団体を招き、自らの障害について、活動の苦労ややりがい話を話していただいている。短時間であるが重い体験等の話は進路のヒントや、生き方への気づきに繋がっていることがレポートを通し確認できた。	障害当事者や家族を含む支援者、ボランティア活動団体の話しの後に生徒同士の話し合いや、授業始めの活動紹介時間が乏しい。	授業では、活動紹介に合わせ簡単な体験を伴わせたいが時間的にゆとりがない。2時間通しの授業時間が少しでも多く欲しい。また同一授業の2回連続は講師に依頼しづらい。学校と調整してみたい。
高齢者・障がい者・こども分野講座実施	・各領域で求められるボランティア像を知り、実践や体験活動を取り入れ、人材発掘の機会を増やす。 ・各領域の課題を学び、ボランティアグループ、NPO団体との連携を図る。	・ボランティア活動にあたって知識・技術を身につける講座・研修。 ・各領域の現場で当面している課題を現場から学ぶ。 ・ボランティア研鑽とボランティア同士の交流、特に福祉領域のボランティア活動者の数居を低くし、互いに支えあう活動を増やす。 ・地域生活で求められているボランティアを知る機会。 ・在宅生活を豊かにすることをお手伝いできるボランティアを知り、実践や体験活動を取り入れた内容の講座づくり。	公開講座「認知症と“笑い”の効果＝その実践的研究を踏まえて＝」講師の大平先生は「笑い」の生活習慣病・認知症などへの身体・心理面への影響の研究と共に、ストレス解消法についての実証的研究を長年されてきた。講師から「認知症と笑いの効果」についてのお話を伺い、アイデアを介護の場面や、日々の生活にとり入れたい。参加者も100以上集まり成果を上げた。 ※障がい者分野の研修は、研究事業で「社会に不安を抱く若者の居場所づくり」と再掲。	広報にはちらし配布など力を注いだが反応は少なく、人づて声かけの方が効果がある。facebookなど利用して、高齢者には反応がなく、若者には興味ないものには反応しない。広報のやり方など考えなくてはならない。	

5

<p>ワタキューグループ新入社員研修(4/30~5/10)福祉施設ボランティア体験講座の企画・講師派遣</p>	<p>・ボランティア精神を学び、座学や体験活動を通じての「人間力」育成。 ・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。</p>	<p>・ボランティア活動の意義を知り、実際に体験活動を通じて現場の職員や当事者と接する機会を通じて交流する。 ・社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ・ボランティア活動や講座の情報提供や発信。</p>	<p>3回目の新入社員研修であり、体験や当事者からの話を取り入れた講座をすることで、ボランティア活動体験だけでなく座学も学ぶ機会になったと好評。福祉現場でのボランティア活動は、受入先事業所にも評判がよく、企業側の人材育成を知る機会であり、利用者の方含めて喜ぶ受入先が多かった。活動時間が短時間だったため、丸1日の受け入れで、という意見もあった。</p>	<p>「ボランティア」を研修に取り入れたことの意義などの発信をもっとしていく必要がある。教育的意義もあるだろうが、根源的に「ボランティア」の中にある普遍的な意義はアピールする必要性を感じた。</p>
---	---	---	--	---

【5. 研究事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題
<p>新規事業に関する調査研究 ①京都市マーケット事業 ②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)</p>	<p>①京都市マーケット回収事業は、昨年度から試行している。 ・手軽に出来るボランティア、だれでも出来るエコ・リサイクル活動である。 ・地域住民に社会貢献活動の啓発や就労支援の活動(障がい者とともに)として研究課題(京都市の助成金交付対象)。 ②ボランティアビューローのサロン事業の活動。 (認知症やひきこもりなどの予防)</p>	<p>①京都市マーケット回収(ゴミ減量推進活動) 京都市では、「ごみ量をピーク時の半分以下まで減らす」という目標を掲げている。 古紙・古着等は、地域の集団回収(コミュニティ回収)を奨励している。減量・リサイクルの推進が特に重要な課題となっている。 ②地域の高齢者や障害者が手軽に来れるサロン(例:趣味・お話し相手等)で認知症やひきこもりなどの予防。</p>	<p>①地域住民の協力を得ながらリサイクルの活動が高められ、回収場所としては回収量は一番多い。 ・地域ボランティアはじめ未就労な若者が事業に参加することにより社会とのつながりをつくり、お互いに協力・工夫しながら、この活動が続けられている。 ・この事業は2年目に入り、①②高齢者が持つ社会的資源を活用しながら、寄り添い、また若者は高齢者をいたわる姿勢が見られてきた。 ②高齢者と社会的に不安を抱く若者をつくる居場所づくり(セルフヘルプセンターの一環事業)京都府地域再生助成金申請報告書【別添資料3】</p>	<p>・社会的に不安を抱く若者は、社会貢献に参加するのは苦手とする人が多い。 ・人の多いところ、声かけなど特に苦手意識が強く、機会があるたびに参加するように勧めている。</p>
<p>ボランティアコーディネートに関する調査</p>	<p>・ボランティア活動の啓発と推進 ・地域で困難を抱える人たちとのボランティア活動を通じての交流等。(社会貢献活動) (【1. ボランティアコーディネート事業】の再掲)</p>	<p>・当協会のコーディネートの範囲が広く、各分野の検討。</p>		

【6. 地域福祉推進事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
<p>災害支援活動</p>	<p>「京都からできること」人的支援・物的支援など後方支援をする。</p>		<p>企業から寄付されたTシャツなど京都に来られた福島の方に贈呈。</p>	<p>「京都からできること」を考えているが人材不足など課題が多い。</p>	<p>協会は、災害活動ができるリーダーが必要であるが、災害ボランティアの問合せの場合は、京都府災害センターにつなぐ。</p>

【6. 地域密着型外部評価、介護・福祉サービス第三者評価事業】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	指針・改善策
地域密着型外部評価事業の充実	質の高い評価を目指す。	・実質稼働できる評価員の増員	<p>・前年度より1事業所増となり、計51事業所になる。(洛和グループ11事業所受注) 現在評価員の登録数が3名増となり計18名である。</p> <p>・審査会のあり方、訪問調査に当って交通費などの効率化など運用について改革を講じた結果、支出軽減に繋げることができた。</p>	<p>・新規参入の調査機関が2社あり、計4社になり、受審の厳しい中であるが、それに打ち勝たなければならない。そのためには、協会の総力を結集し、情報を収集して受審事業所の獲得に傾注する。</p> <p>・同時に主任評価員の育成が急務であり、協会独自の研修を強化し、受講義務化を必須とする。</p> <p>・18名登録中、実質稼働できる評価員が限定しているため増員を図ることが急務である。</p>	<p>・事業推進のため新規開設事業所の情報を早くキャッチしてアプローチをする。</p> <p>・多数の事業所を運営する法人の本部にアプローチを強化する。</p> <p>・事務経費の見直し、削減策を更に徹底する。</p> <p>・評価事業所からの評価を得るべく評価調整の資質向上に努める。</p>
	公平・公正な調査を目指す。	・評価者の研修・勉強会の充実			
介護サービス第三者評価事業の充実	質の高い評価を目指す。	<p>・評価員の増員</p> <p>・評価者の研修勉強会の充実</p>	<p>受診件数が前年度より3事業所減になり、12事業所に留まる。(現在府下17調査機関あり) 登録評価員は重複含めて18名。</p>	<p>・受診率の比較的高い特別養護老人ホーム、通所介護を中心に協会PRが不可欠である。</p> <p>・最近の傾向として調査員が第三者評価を敬遠して外部評価にシフトするため、その打開策として報酬の見直しが必要と思われる。</p>	<p>受診促進のため、事業所(大法人など)、支援機構(府社協が事務局)に対して、協会の理事、審査委員、事務局などが一体となり、取り組む。</p> <p>・主要法人ターゲット先として</p> <p>京都市社会福祉協議会 京都福祉サービス協会 京都社会事業団 椋野福祉会 青谷福祉会 健光園</p>
福祉サービス第三者評価事業の充実	質の高い評価を目指す。	<p>・評価員の増員</p> <p>・評価者の研修勉強会の充実</p>	<p>受診件数は、前年度より2事業所増となり、収益増に貢献した。特に受診が3年に一度義務付けられた社会的養護関連施設(府下で24施設)で2施設受注した。(現在府下8調査機関あり) この分野のみ報酬を見直した。全登録評価員は17名。</p>	<p>・左記の社会的養護施設の受注アプローチが必要である。(現在2施設は内定、順次展開中)</p> <p>・上記とは別に受診料が高い児童・保育・障害分野の事業所獲得を目指す。</p>	<p>・福祉サービスについて、社会的養護施設以外の報酬も見直す必要がある。拡大策としては上記通りである。</p>
評価・調査事業の管理・運営体制の整備	効率的な事務運営	・評価・調査機関としての事務体制の整備	評価・調査事業 25年度6,460千円	【別添資料4】	

【8. 企業・労働組合の社会貢献活動の推進】

事業項目	事業目的	事業内容	成果	課題	改善策
企業・労働組合との協働と交流	・企業等の社会貢献活動の啓発や推進。	①協会事業(祭等)への参加および企画等への参画。 ②社会貢献のあり方・意義を学ぶ機会の提供(ボランティア活動紹介や、講師派遣等)。 ③ボランティア活動や講座の情報提供や発信。	祭協賛団体の継続参加。	協賛団体ボランティア参加の減少。 企業側ニーズの情報収集不足。	祭に特化せずボランティア情報等を流せるような工夫。あるいは企業の社会貢献活動事例紹介など。
災害支援活動			2014年度は合計46800円をギフトカードで受領(2014. 4. 11)(第7回きょうボラふれあい祭大抽選会の景品に使用する予定)。	・キャンペーンの為にボランティア協会参加延べ20名。 ・気軽に参加できるボランティア活動の一つであるが、現在ボランティアが集まらず職員で対応している為、13時～15時の昼間の時間帯の参加がない。 ・このキャンペーンは、当協会のPRの機会である。	一人でも多くのボランティアを求めていく。一般市民への協会活動の広報・啓発機会と地道な活動を行なう。

<組織・運営>

【1. 組織・運営体制整備】

事業項目	事業目的	事業内容	事業成果・今後に向けて
組織基盤の強化	・会員増員・確保に取組み組織基盤を強化する。 (賛助会員の拡大)	①会員拡大委員会の設置 ②イベント等参加団体・者への会員案内・勧誘 ③各新聞社・関係団体の広報媒体の活用 ④理事、会員との交流の機会を設ける	①会員の高齢化もあり、年々会員が減少している。会員拡大委員会の設置が急務である。2013年度入会者11名 退会者20名(住所不明など) ②イベント等で団体・グループ・会員案内。(幸せの黄色いレシートキャンペーン・各イベントで随時配布) 会員から会員への口コミが効果的ではないか。 ③京都市ボランティアセンター・新聞社・関係団体の広報媒体の活用。 ④理事、会員との交流の機会を設けるために総会後の交流会(講座等)を設けているが会員の参加が少ない。 ・2013年度臨時総会后ワールドカフェを開催し「これからの京都ボランティア協会のあり方」など自由に話し合った。さらに来年度は「ボランティアカフェ」など会員や一般も巻き込み協会の将来展望を探求する。

	<p>的な事務執行体制を築き、運営体制を整える。</p>	<p>強化と、迅速な事務遂行</p> <p>②事務局体制の整備(人員の補強)</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局員との連携の強化</p> <p>④ボランティアスタッフ研修会の実施</p> <p>⑤評価・調査事業の管理・運営体制の整備</p> <p>(再掲)</p>	<p>認められず収益事業で申請。公益目的事業をさらに展開しなければならない。5/1に一般社団法人に移行登記した。一般社団に移行した後は、公益目的支出計画書の提出が毎年義務付けられている。公益事業をしつつ収益事業をしなければならない。</p> <p>②公益事業及び収益事業の事業経費より人件費、調査人件費が主に占めている。若い正職員を採用、夜間業務パート延べ4人採用。協会のPRに努めたがやはり若手職員は、10月末で退職。財政の安定化を図り、事業を拡大・新しい事業に着手すると同時に事務の効率化をはかる事が急務である。</p> <p>③理事、ボランティアスタッフ、事務局との意見交換・交流会ねこのてさろん・祭実行委員会等での交流の場に進んで参加するように努めた。</p> <p>④ねこのてさろんの事業(再掲)2013年はレクレーション等を会員・ボランティア登録、参加を増やす。</p> <p>⑤継続のボランティアスタッフにボランティア保険の費用は協会負担(2014年対象ボランティア52人名13,000円)</p>
<p>ボランティアビューロー・3階のボランティアセンターの一部の管理・運営</p>	<p>・有効な管理運営をし、友好的で開放的な場を目指す。</p>	<p>①利用状況の把握・管理</p> <p>②広報物の掲示・整理</p> <p>③ボランティアビューロー活性化事業の促進</p>	<p>・お誕生日ありがとう運動京都友の会・NPOインホープ等の団体が交流の場として頻りに利用されている。当協会行事(ねこのてさろん・祭・発送業務・企画委員会・評価事業の審査会)も利用している。他の団体・一般にも声をかけさらに輪を広げたい。 2013年度利用者人数:のべ2032人</p> <p>②広報物の展示の呼びかけをし、整理に心がけている。</p> <p>③ボランティアビューローの活性化のため職員を採用したが、ITを活用して「哲学カフェ」開催し、広く呼びかけたが、効果を得ることができなかった。2014年はホームページをリニューアルを予定する。外注は、事業を理解する関係者に依頼する。 ・ボランティアビューローは、他団体には会議や打ち合わせには、個室の仕切りがなく、使いづらい。個人でまたは一人で来館する人が多く、多彩なイベントなど企画し、大勢の参加を期待したい。</p>
<p>財源の確保</p>	<p>・財源確保による安定的事業運営。</p>	<p>①助成金の確保</p> <p>②ボランティア団体賠償保険の加入勧誘</p> <p>③会員拡大</p>	<p>①京都府地域再生力、京都共同募金会、京都新聞社会福祉事業団、国際ソロプチミスト京都、京都橋ライオンズクラブ、会員、一般等からの寄付。</p> <p>②他の団体・グループにも声をかけ、交流の場を設け、万一事故があった場合に備え、加入勧誘を進める。</p> <p>③一般社団法人移行後は、更に公益性のある事業を展開し会員を拡大する。</p>

(敬称略・順不同)

一般寄付			指定寄付	助成金
安倍秀樹	岩佐敏子	赤西恵子	国際ソロプチミスト京都	京都生命保険協会
安倍隆二	吉原百合子	村上安子	村尾 幸作	経系の会
ウエスマンバー	語り部の会	大矢治世	京滋日冷サービス(株)	京都府共同募金会
京都勤労者学園	香西恵子	藤岡一二三	大川昭	京都府地域再生
宇理須典子	山崎孝江	藤松素子	河田正博	京都新聞社会福祉事業団
奥真木	山本賢治	福田博之	匿名4名	
桶田博紀	松井三千	嶽山好男		
鎌光 新治	松岡幸代	匿名3名		
丸清木材(株)	西田靖子			

2013年度

1. ボランティア相談について

総合計295件(昨年度は326件)

〈2013年4月1日～2014年3月31日〉

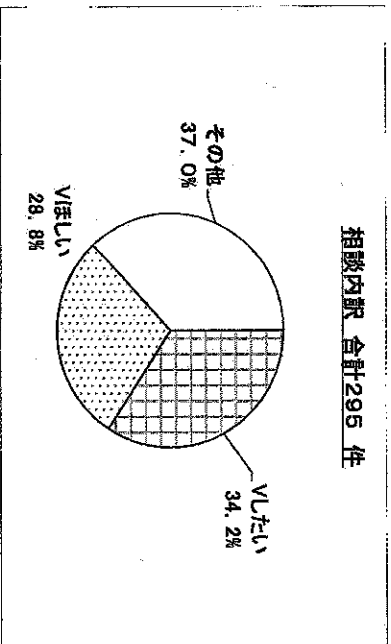
ボランティア相談からコーナーダイレクトは始まる。相談の内訳をまとめた。

その他の相談が109件(昨年106件)・・・バザーやウエエなどの物品提供31件、講座イベント情報、広報依頼が35件、団体検案等10件が多かった。

1 相談

1-①相談内訳

	13年度	12年度
Vしたい	101	111
Vほしい	85	109
その他	109	106
計	295	326



※協会をすでに知っている人や団体、協会ホームページを見ての相談が多い。

「ボランティアしたい人」からの相談は、ホームページを見ての相談、「ボランティアほしい」(依頼相談)は関係団体やリピーター中心。

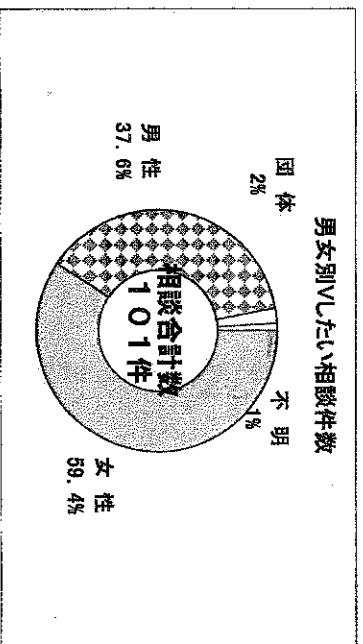
1-②協会を知った経路

	13年度	12年度
協会を知った媒体など	74	78
協会ホームページ	21	35
新聞	36	51
リピーター	77	87
関係団体・者	11	4
知人	21	19
ボランティアセンター	8	13
きょうボラ・チャレンジ	11	7
役所	7	10
その他	29	29
不明	29	29
計	295	326

リピーター：以前に協会に依頼したことがある
知人：問合せしてきた本人の知り合い
関係団体・者：協会会員、登録ボランティア、関係団体など

2. Vしたい相談件数

	13年度	12年度
女性	60	58
男性	38	44
団体	2	4
不明	1	5
計	101	111



※ボランティアしたい相談から実際に新規のボランティア登録に結びついたのは34.7%(35件の登録)

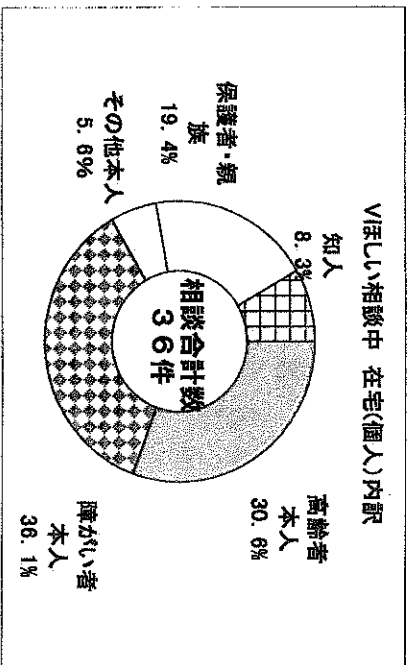
昨年度は26.1%(29件)

3. V/ほしい相談

※ボランティアほしい相談からボランティア依頼となったのは52.7%(58件の新規依頼)

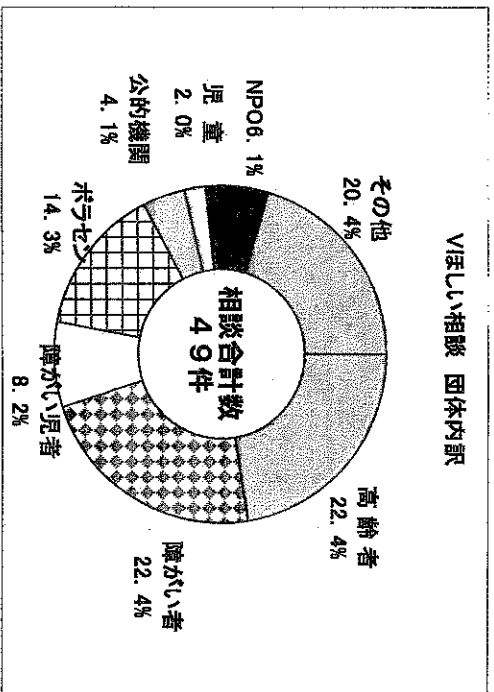
3-① V/ほしい相談中 在宅(個人)内訳

	13年度	12年度
	本人	11
高齢者	11	0
障がい者	13	7
その他	2	7
保護者・親族	7	9
知人	3	10
計	36	33



3-② V/ほしい相談中 団体内訳

	13年度	12年度
高齢者	11	17
障がい者	11	8
障がい児	0	0
障がい児者	4	8
ボラセツ	7	12
公的機関	2	3
医療機関	0	3
児童	1	3
NPO	3	15
その他	10	7
計	49	76



2013年度

Ⅱ. ボランティア活動希望者について

〈2013年4月1日～2014年3月31日〉

総合計97人

：2012年度統計

統計表1 性別

性別	総数	女性	男性	団体
12年度	114	71	43	0
13年度	97	59	38	0
13年度 内新規 登録者	21	14	0	0

※2012年度の新規登録者28人より微増

統計表2 所属

性別	13年度	12年度	学生	勤労者	フリーター	無職	その他	団体	総数
女性	13年度 14	12年度 13	14	25	1	17	2	0	59
男性	13年度 8	12年度 9	15	14	0	13	2	0	38
小計	13年度 22	12年度 22	29	40	1	30	4	0	97
									114

【学生内訳】

	13年度	12年度
大学	22	18
短大	0	0
専門学校	0	4
高校生	0	0
不明	0	0
その他	0	0
合計	22	22

統計表3 年代

性別	13年度	12年度	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	総数
女性	13年度 4	12年度 2	16	10	8	7	12	2	0	0	59
男性	13年度 1	12年度 7	12	12	9	10	9	8	5	0	38
小計	13年度 5	12年度 9	28	22	17	17	21	20	7	0	97
											114

※協会事業参加のボランティア数は除いています(社協フェスタ、協会内作業など)。

統計表4 地域別ボランティア希望者受付

	13年度	12年度
北 区	2	3
左 京 区	14	18
上 京 区	8	7
中 京 区	8	9
下 京 区	3	8
右 京 区	7	10
西 京 区	5	7
東 山 区	6	5
山 科 区	6	10
南 区	6	8
伏 見 区	14	18
市内不明	0	0
小 計	79	103
府 内	14	9
府 外	4	2
合 計	97	114

※府内：京都市南部地域在住者

登録ボランティア 97人中(昨年度 114人)

2012年度

活動人数(紹介人数) 67人(うち新規V活動20人)

73人

そのうち単発の活動参加 29人

26人

協会依頼の活動〇回の人 43人

46人

登録者中の協会会員 14人

※45.4%(昨年度40.8%)の人が協会への依頼フェースのボランティア活動はしていない。祭や協会内での活動には28人(28.7%)が参加している。

2013年度の特徴

①新規登録ボランティア微増。特に男性ボランティア登録者が増えた。
※継続登録者：継続ボランティア者62人。登録人数全体は減少している。
13年度末のボランティア登録用紙を返信してくださった人は15人。

②協会イベントへの参加は28人、登録後全く協会での活動のなかった人は28人。

③無職30人内訳：定年退職 14人、専業主婦 6人、求(休)職中 5人
その他5人。

④登録者のうち、障がいや疾病のある人は17人(昨年度23人)

2013年度

Ⅲ. ボランティアの応援求む

<2013年4月1日～2014年3月31日>

総計86件

2012年度統計

統計表1

A～Dの調整における対応回数について

対応回数合計	依頼者との対応回数	ボランティアとの対応回数
訪問・メール等 168	訪問・メール等 68	訪問・メール等 738
1390	552	838
1832	713	1119

(注)対応回数とは電話やメールのやりとり・訪問・来協などの回数のこと

統計表2

依頼者について	依頼者について	クライアントの属性問題						クライアントの住む地域				
		個人	団体	障がい児	障がい者	障がい児者	高齢者	児童	他	市内	府内	府外
総数	86	58	28	14	39	1	24	3	5	72	9	5
2012	112	83	29	20	40	1	40	3	8	105	4	3
A	48	47	/	11	22	/	12	1	1	46	1	0
2012	67	67	/	15	28	/	22	0	2	65	2	0
B	10	11	11	0	7	4	0	0	0	6	3	2
2012	16	16	16	0	7	4	7	1	1	13	0	3
C	7	/	7	1	1	3	0	0	1	6	1	0
2012	9	/	9	3	2	2	1	1	0	8	1	0
D	21	/	21	2	9	0	5	2	3	14	4	3
2012	20	/	20	2	9	0	9	1	5	19	1	0

※依頼者のうち、協会員は2人。

※統計表の説明

A	在宅(個人)継続ケース
B	在宅(個人)単発ケース
C	施設・ボランティアグループ等の継続ケース
D	施設・ボランティアグループ等の単発ケース

統計表3 地域別依頼受付数

	13年度		12年度	
	北 区	3	6	6
市	左京区	9	10	3
	上京区	2	3	5
	中京区	6	5	10
	下京区	8	8	16
	右京区	13	13	14
内	西京区	8	8	5
	東山区	1	1	15
	山科区	6	6	5
	南区	7	7	16
伏見区	9	9	105	
小 計	72	72	112	
府 内	9	9	4	
府 外	5	5	3	
合 計	86	86	112	

統計表4 受理後の処理について

区分	総数	処理内容		
		1.V紹介(内団体等紹介)	2.V紹介できず	3.その他
総数	86	55	0	9
A	112	56	2	11
B	46	28	0	2
C	67	32	1	6
D	12	9	0	3
内	16	9	1	3
C	8	3	0	1
D	9	0	0	0
小 計	21	16	0	3
府 内	21	15	0	2
府 外	20	15	0	2

1. V紹介:1人でもボランティアを紹介した、あるいは継続しているボランティアがいる依頼
2. V紹介できず:ボランティアを1人も紹介できなかった依頼
3. その他:依頼者からのキャンセル、依頼者の死去

統計表5 依頼者区分別ボランティア紹介数

障がい児	障がい者	障がい児者	高齢者	児童	その他	合計(ケース数)
6	29	0	13	1	7	56
5	12	0	17	1	5	40
在宅	団体	在宅	団体	在宅	団体	合計(紹介人数)
2	1	16	14	1	1	67
9	0	9	12	0	15	73

※1人で複数回活動した人がいる。

統計表6 月別依頼者別新規ボランティア紹介数(詳細)

	在宅(個人)						団体						計
	障がい児	障がい者	高齢者	児童	その他	小計	障がい児	障がい者	高齢者	児童	その他	小計	
4月	0	3	3	0	1	7	1	0	0	0	1	2	9
5月	0	1	0	0	0	1	0	5	0	0	0	5	6
6月	0	2	4	0	0	6	0	0	0	0	2	2	8
7月	0	0	2	1	0	3	0	0	0	0	0	3	6
8月	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
9月	0	3	1	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4
10月	1	0	3	1	0	5	0	4	1	0	3	8	13
11月	0	3	0	1	0	4	0	0	1	5	0	6	10
12月	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
1月	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	3
2月	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	1	2	4
3月	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
計	2	16	14	3	1	36	1	14	8	0	7	31	67

※紹介数は、1度でも活動した人のこと。

統計表7 依頼内容

	在宅				団体				合計	
	13年度	12年度	13年度	12年度	13年度	12年度	13年度	12年度	13年度	12年度
話し相手	13	15	3	2	16	17	17	17	16	17
遊び相手	6	7	0	4	6	11	11	11	6	11
子育て	1	0	1	2	2	2	2	2	2	2
生活介助	その他	1	0	0	0	1	0	0	1	0
通学・通院	9	11	0	0	9	11	11	11	9	11
行楽・観光	2	3	6	1	8	4	4	4	8	4
余暇・趣味	14	19	0	0	14	19	19	19	14	19
外出介助	その他	3	1	1	0	4	1	1	4	1
施設外出行事	家庭教師・看護	1	4	0	0	1	4	4	1	4
技能提供	パソコン等	3	3	0	1	3	4	4	3	4
レク	0	0	2	5	2	5	5	5	2	5
その他	2	5	1	1	3	6	6	6	3	6
行事援助			15	22	15	22	22	22	15	22
メンバー募集			2	2	2	2	2	2	2	2
合 計	87	91	37	42	124	133	133	133	124	133

→話し相手だけの依頼者は3人。外出等楽しくしたい
という希望のある人たちは「友達」(話し相手)と
した。→自宅の片づけ(大掃除)、限度まで利用
した後の買物のほか、制度利用できない
人からの家事援助。→施設外出行事
→身近な買物、散歩などの外出。→パソコン初歩からカメラ撮影
→特技披露などレクをしてほしい
陶芸、囲碁相手など

注1)身体介助:食事・トイレ介助以外に車いす介助や手引きなども含む

注2)余暇:趣味、買物、神社仏閣、映画、散歩など

注3)依頼内容が重複するため合計数が依頼件数より多くなっている。

たとえば、一人の依頼内容で、自宅での話し相手や遊び相手に加えて、外出するようなケース。

団体名 一般社団法人 京都ボランティア協会

事業名 京都ボランティア協会 企画参加 福祉ボランティア社協フェスタ

【具体的な活動内容】

(事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等)

実施日時：2013年10月20日(日) 10:30~15:00

場所：「ひと・まち交流館 京都」全館(京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅濠町83番地1)

うち、協会企画参加は3階の大バザー、大抽選会、Tシャツでアート、1階・ボランティア・ビュローのパソコン教室、影絵、ミニカフェの部分。グラウンドの参加団体呼びかけを協会が中心となって行った。事業趣旨：「ひと・まち交流館 京都」開設10年目の節目を迎えることを記念し、京都市福祉ボランティアセンター拠点の場所で「福祉ボランティア・社協フェスタ」を開催する機会に参加団体として当協会も運営協力した。

参加者の状況：来館数(概算)1,000人

事業内容：ふれあい市場、ふれあい大バザー、ふれあい大抽選会、Tシャツでアート、ボランティア・ビュロー企画(パソコン教室、影絵、ミニカフェ)を開催。

※参加団体は、ふれあい市場13団体(稚松学区連合会、崇仁学区連合会、京都でてこいランド、社会福祉法人みやこみやこ西院作業所、蒸しまん&カフェ「まんまん堂」、京都市うずまさ学園授産部、NPO法人就労ネットうじみつくすはあつゆめハウス、ボランティアグループタソボボ、北ふれあいグループ、京都光彩の会ワークスセッションかれん工房、配食サービス葵・ゆりかもめ、絵夢(エム)、当事者会(まっこり)※当日ボランティア87人、前日ボランティアは13人(いずれも実行委員スタッフ、事務局員含まず)

【当日の様子】

○当日は生憎の雨天で天候には恵まれなかった。ブルーシートや風雨除けのビニールを食事ブースに張つてなど風雨対策を施し、雨天対策の水かき要員等において足元対策を行ったことは好評であったが、模擬店関連の出店(ふれあい市場)は売り上げが伸びなかった。それでも参加団体のアンケートからは「他団体との交流ができた」「ボランティアの協力や手伝いで搬入がスムーズにできた」などの声があった。ごみ箱の少なさを指摘された。

○3階のバザーや抽選会会場は4・5会議室に低い仕切りを設けただけの会場で、両者の様子がわかるように配置しこじんまりとして一体感がでていた。例年通りバザーでは十数名並んだお客様がいたが、時間帯によって来客の混雑具合に偏りがあった。

○今年度毎月取り組んでいるTシャツでアートをフェスタの中でも開催し、呼びかけをすることで2回とも定員に達してオリジナルのTシャツができた。

○ビュロー企画のパソコン教室は2度目の時間帯で空席もあったが、丁寧な指導は評判がよかった。影絵は2度とも10席ほどの席が埋まり、子どもから大人まで楽しんでいた。「楽しかった」「難しかったけれどまた見たい」という声があった。

○当日ボランティアは協会企画が少なかったもので87人となったが、例年参加のボランティアや年齢層も10代から80代までと幅広く、ボランティアスタツリーダーの指示も的確でスムーズに動けた。参加した当日に知らない者同士が協力して楽しく過ごせる活動に、アンケート回答者の9割以上が「楽しかった」と回答を寄せている。

【活動の成果や課題】

○従来の協会の祭より開催時間も短く、企画内容も少なくなり準備作業は大幅に減ったが、準備もスタッフ個人が仕事の休みを利用して行うことが多く、事前準備段階からイベントを裏から陰から支えるメンバー不足を今年度も痛感した。新メンバーが加わらなかつただけでなく、旧メンバーの会議出席率は減少してしまった。準備作業が減ったとはいえ、祭当日までの準備作業はあり、それを含め前日のボランティアの参加が少なく、日頃から協会へ足を運ぶ人たちをもっと増やしていく工夫、興味ある活動をしていくことや、ロコミ・人づてでの仲間作りも求められる。

○年間通じてイベントは本当に各種開催されている。秋は福祉系の祭も、事業所や各区で開催されるものを含めれば毎週のように行われ、模擬店やステージ、販売、ワークショップという形式はどこでも見受けられる形態である。そんな中でどのように違いを出すか、あるいは新たな形を模索するか。イベント含め企画物は「楽しさ」の演出、開催方法やその内容（学びも含めて）はないかを考えることも必要である。

○イベントは一つの目標に向かって期限付きで形を作っていくので、誰もがわかりやすい最終目標が見える。互いにフォローしあえる関係になっていけるようにすることと、一人ひとりを尊重するような人間関係をさらに構築し、協会が行うイベントの「協会らしさ」とは何か、社協フェスタへの参加で改めて考えていく必要がある。

○企業側にとって協会の祭に協力することの目的が薄れつつある。単に「ひと・もの」を引き出すだけの団体ではなく、協会に集うことの意味合いを再確認するような機会を作ることも必要である。

○協会の祭は、参加団体とともに運営資金を得ることも含んでいる。しかし、ともするとそれぞれの当日の売り上げだけに目が奪われがちになりやすい。協会もボランティアや運営資金を得るためだけに参加を呼びかけているわけではない。ボランティア活動を継続するには、協会の存在自体に社会的意義があり、祭の目的や内容は「ともに」進む仲間や団体であることはもちろん、事業運営や継続には金銭的な裏付けもなければいけないが、そのあたりの理解とともに共働していく意義を伝えることも今後はより重要。

○祭り当日ボランティアのアンケート提出者からは「楽しい」「また参加したい」と好評で、当日盛り上がることで、協力して取り組む力は例年通り素晴らしいものがある。

○イベントの役割の中には、困難さを抱える人たちも参加できる内容もあり、日頃は別分野の人たちが困難を抱える人たちと出会うチャンスでもある。あるいは、自分自身の特技が活かせる場であり、発表の場であり輝ける場である。いろんな人たちがいるという当たり前のことが、気付けない時代に、助けられる側にいる人が助ける側に回ったりできるのも協会のイベントの良さである。大イベントの中だけでなく、常の活動の中にもそんな機会のあることを広報することも必要だと思われる。

事業報告書

団体名	一般社団法人 京都ボランティア協会
事業名	「高齢者と社会的な不安を抱く若者をつくる居場所づくり」

【具体的な活動内容】（事業の趣旨、実施日時、場所、参加者の状況、事業内容等）

趣旨

協会らしきを生かした事業であり、社会的ニーズが高い。対象者は発達障害、メンタル面の病気など、何らかのハンデイがあるために、ひきこもりや孤立状態になったり、生活経験の不足から、自立的な生活を送ることが苦手な人たち（特に、若い世代の人）に活動の場所を提供する。

- ・他者との交流機会が減り、孤立しがちな、ひとりぐらしの高齢者に目的をもった交流場所を作る。（公的制度の対象にならない人、公的制度が合わず利用しない人のため）
- ・ハンデイをもつ若者（何かしたい、働きたい、自立した）に目的をもった居場所づくりを解説し、関係団体と協力し新たな活動の展開をはかる。

（1）居場所型事業として、現在の事業をもとに、当事者に社会的孤立を防ぐ暖かい「居場所」を開設した。

①高齢者を対象にした社会貢献イベント。

②障がい等の社会的ハンデイを持つ若者を対象にするもの

③運営趣旨

- ・管理が厳しくない、責任が軽い、緩やかな場であること
- ・作業などを通じ、「自分が役に立っている」「役割が果たせる」など達成感を感じられる場とすること。
- ・地域の高齢者との関わり方（世代間交流）についても実践した。

「居場所」：京都ボランティア協会 ボランティアビュロー、当協会大徳寺分室の ほかに団体施設。

※ 大徳寺分室は、若者や高齢者の居場所作りのために便宜上使用する、ウエスの材料や製品などの保管庫としても使用している。

（2）協力団体 LPW 若者と家族のライオンクラブを考える会、強迫友の会、八幡市役所子育て支援課家庭児童相談室、京都府家庭支援総合センター（ひきこもり相談）、一般 ほかに

実施時間： 毎月第2、第4木曜日午前は高齢者、午後には若者

参加人数： 高齢者 延べ240人、若者 延べ64人（若者には一部交通費支給）

高齢者 平均75才（内3人独居） 若者 30才前後（発達障害、強迫症、アスペルガー、ほか）

活動内容：ウエス作業を中心にイベントのお手伝いや社会貢献（ボランティア活動）など

【活動の成果】（今回の事業を通じて生まれた連携や地域での活動の拡がり、気づいた点など）

・セルフヘルプグループ（SHG という）の情報収集や居場所を求める当事者への紹介、・セルフヘルプグループの交流とネットワークづくりなど開始した。

（協会ホームページに掲載 SHGのホームページにもリンクされている）

- ・協会に参加できる若者には、当事者同士でルールを作成することができた。
- ・作業から、強迫症状が表れ 作業のあと確認を頻繁に行うことがやはり社会生活に支障をきたしているが、任上がりば丁寧である。最近では作業仲間と楽しそうに会話をしている。
- ・うつ病、発達障害、強迫症はそれぞれ症状が違うが、助け合って、協会に来るのを楽しみにしている。
- ・これをきっかけに他の「居場所」にいけるようになったと感想をいただく。
- 7人中1人は就労B型支援に通い始め、一人はボランティアの参加からアルバイトが見つかり、ほかダイサービスにも行けるようになったひきこもり経験者もいる。協会に来て、ウエス作業での交流をきつ

けに他の場所「居場所」も見つかった。

- ・若者に交通費程度工賃を支払っているが、働いてもらうお金は嬉しいと喜ばれている
- ・強迫症の若者とボウリングなどを含む企画し、ボランティアサポーターと食事を共にしたが、ひきこもりとは思えないくらい楽しんでくれた。その中には協会に一人で来られない若者が多数いる。家族の理解と当事者同志の声掛けをしているが、来てくれるようになるにはまだまだ時間がかかりそうだ。
- ・巣立った若者には、たくさん居場所を見つけ、多くの人との関わりで少しでも社会への不安がぬぐえるように応援・支援をして「また遊びにおいて！」と声掛けをしている。
- ・若者と高齢者の世代間交流から始まり、高齢者がウエスづくりを指導する。
- ・高齢者との世代間交流は話がはずみにくく、時間をかけて少しずつ交流していくようにする。
- ・ボランティアスタッフ等の人材養成

サポータースタッフの研修では、当事者の家族の会に参加し、当事者の家族からの事例の情報をいただき、講座を開催した。

10月24日 NPO設立に至るまで…そして現在

講師：NPO法人就労ネットウじみつくすはあつゆめハウス 江崎美子氏

内容：講演者の息子（聴覚障害）さんの体験等のおはなし

LPW事業紹介 講師 河田桂子氏

強迫症の会の紹介 講師 今吉扶美氏

10月27日 社会的不安を抱く青少年のかかわり方 わたしの場合

講師：NPO インホープ ミネマツシゲホ氏

11月28日 「社会生活をスムーズにするためのスキル」

講師：NPO 法人就労ネットウじみつくすはあつゆめハウス 中野泰子氏

定例会 毎月1回で合計8回 毎月の行事の見直し、ウエス作業の感想、

当事者の日常的な事などの情報交換

・一人暮らしの高齢者は、手を動かしながら会話ができて、イベント等で食事を一緒にしたり、協会に来るのが楽しみであると言ってくれている。

・高齢者や当事者や家族アンケートによれば、全員がウエス作業を含めての居場所は、継続してほしいとの回答があった。（2014年度事業計画に掲載）

・高齢者や当事者の社会貢献などの参加は年間延べ60人ほど参加してくれているが、若者は苦手な分野である。ゆっくりと気長に対応する必要がある。

・キャリアアップのグループには「年賀状作りやちらし作りなど」協会とネットワークを組みながら作業を進め、現在、生きづらさを感じている若者にボランティアスタッフがパソコンを指導している。

・本年度最終の講座に仏教大学の中田教授との公開講座を予定したが日程が合わずできなかった。

今年度は対象者を若者に力を注いだが、セルフヘルプセンターの一部であるグループづくりや居場所づくりを始めたが、セルフヘルプセンターを構築するためにはさらに研究・検討をしなければならない。

平成25年度 研修会実績

	研修会名・テーマ	講師 (敬称略)	日時	場所	対象者	参加数
1	研修会 (事業所の労働環境について)	中川 剛 (社会福祉法人 京都老人福祉協会 労働組合委員長)	6月30日	京都社会福祉会館	会員・調査員	11名
2	社会的養護施設に関する研修会	京都府・施設・調査員合同(初)	7月26日	京都テルサ	資格取得 評価・調査員	9名
3	勉強会	企画委員	7月28日 8月25日 2月12日	ボランティアビューロー	評価・調査員	8名~ 13名
4	施設見学会 (児童養護施設・乳児院)	平安徳義会 (施設長 木塚 勝豊)	8月21日	平安徳義会 (西京区) (社会福祉士会と合同実施)	資格取得 評価・調査員	6名
5	事業所見学会 (小規模多機能型)	板橋の家ほっこり	10月13日	板橋の家ほっこり(伏見区)	評価・調査員	8名
6	公開講座	大平 哲也 (福島県立医科大学 教授)	11月2日	京都社会福祉会館	評価・調査員及び事業所、一般	72名
7	社会的養護施設に関する研修会	龍尾 和幸 (青少年自立援助ホーム 東樹ホーム長)	11月 (3回)	東樹 (東山区)	資格取得 評価・調査員	5名
8	施設見学会 (新設 特養ホーム)	まごころ園 (理事長 伊藤 弘子)	12月8日	まごころ園(宇治市)	会員・調査員	9名
9	外部評価フォローアップ研修	平林 景子 (地域生活サポートセンター局長)	12月11日	京都社会福祉会館	評価・調査員	14名
10	第三者評価フォローアップ研修	第三者評価支援機構	3月8日	和牛登録会館	評価・調査員	10名
11	25年度【振り返りの会】	協会企画運営委員会	5月10日	京都社会福祉会館	評価・調査員	
12	懇親会	協会企画運営委員会	12月11日 5月10日	京都社会福祉会館	評価・調査員	

第三者評価 新人研修修了者	小泉 高伸、家野 未知代	2名
外部評価 新人研修修了者	野本 千代子、家野 未知代、川崎 一広	3名

理事会開催状況

2013年度

回数	日程	主な議案・協議事項
第125回	4/17	「一般社団法人化」審議会結果について ・福祉ボランティアセンター夜間業務の一部受託について
第126回	6/13	2012年事業報告・収支決算報告承認される・監査報告について
第1回総会	6/22	2012年事業報告・収支決算報告承認される・監査報告について
第127回	7/29	2012年事業報告・収支決算報告承認される・監査報告について(第126回の再開)
第128回	8/6	一般社団法人の定款に基づき理事会定数および理事会の出席人数に関する件について
第129回	10/1	協会役員体制・理事組織の検討、2013年度の事業の取り組みについて
第130回	11/28	本協会の事業活動の見直し(スクラップ&ビルド) 常務理事代行について
第131回	1/27	本協会の事業活動の見直し(スクラップ&ビルド) 常務理事代行について (第130回継続審議)
第132回	2/22	
臨時総会	3/22	2014年事業計画案・2013年予算書(案)確認、これからの協会の方向性について 交流会

***新公益法人制度への移行関連会議等 (2008年12月5日法施行)**

—新法についての説明会参加状況—

4/23	京都府から一般法人移行の認可を受ける。
5/1	新公益法人制度改革に係る一般社団法人登記完了。

4月	7日(日)	ねこのてさるん花見 大徳寺分室ミニバザー 黄色いイベントキャンペーン	10月	1日(火)	赤い羽根共同募金活動
4月	10.11日(水)	2012年度分贈呈式	10月	20日(日)	福祉フェスタ1部企画参加
4月	15日(日)	大徳寺分室ミニバザー(やすらい祭)	10月	27日(日)	「社会的に不安を抱く若者とのかかわり方」講座 福祉大会
4月	30日(火)~ 5/10	新社会人向けボランティア研修A (ワタキユーグループ様)	10月	31日(木)	
5月	6日~ 23日(木)	亀岡カモミール痛み取り体験参加 ボランティア発送	11月	1日(土)	「認知症と“笑い”の効果」講座開催
5月	25日(金)	京都府府民カゾプロジェクト助成金申請・府 庁打合	11月	15日(金)	朗読発声ワークショップ
6月	14日(金)	朗読発声ワークショップ	11月	16日(土)	癒しのハーブコンサート打ち合わせ
6月	19日(水)	第三者評価支援機構總會	11月	24日(土)	ねこのてさるんクリスマス飾り付け
6月	20日(水)	ねこのてさるん「強迫友の会と合同ボランティア」	11月	28日(土)	癒しのハーブコンサート打ち合わせ
6月	28日(金)	朗読発声ワークショップ	12月	1日(日)	ひとまち交流館会議室抽選会
6月	29日(土)	ねこのてさるん「トシヤツアート」	12月	7日(土)	癒しのハーブコンサート打ち合わせ
7月	7日(日)	市役所前フリーマーケット出展	12月	13日(金)	朗読発声ワークショップ
7月	2日(月)	青少年街頭活動	12月	14日(土)	史跡ガイド「同志社キャンパスツアー＆新島旧邸」
7月	19日(金)	朗読発声ワークショップ	12月	15日(日)	ねこのてさるん「強迫友の会と合同ボランティア」
7月	20日(土)	ねこのてさるん「強迫友の会と合同ボランティア」	12月	21日(土)	ねこのてさるん開催「クリスマス会」
7月	21日(日)	でてこいランド夏祭り参加	12月	21日(土)	癒しのハーブコンサート打ち合わせ
8月	4日(土)	京都市障害者スポーツセンター夏祭りに出	1月	10日(金)	朗読発声ワークショップ
8月	12日(月)	大徳寺分室改修工事開始	1月	11日(土)	癒しのハーブコンサート打ち合わせ
8月	9日(土)	朗読発声ワークショップ	2月	10日(月)	京都生命保険協会助成金贈呈式
8月	17日(土)	「ねこのてさるん哲学カフェ」	2月	17日(月)	三役会
8月	18日(日)	ゼスト御池イベント参加「トシヤツアート」	2月	22日(土)	ねこのてさるん開催「スピーチブックを作ろう」
8月	23日(金)	朗読発声ワークショップ	3月	22日(土)	臨時総会&交流会(ワールドカフェ)
9月	21日(土)	「ねこのてさるん哲学カフェ」	3月	29日(土)	ねこのてさるん「おはぎを作ろう！」
9月	25日(水)	フェスタ一部企画「ボランティア説明会」			
9月	27日(金)	「強迫友の会」の家族会に参加			

定例的な作業・会議

- ・基盤造成委員会
- ・調査員勉強会
- ・「祭」準備・実行委員会
- ・高齢者と社会的に不安を抱く若者の居場所づくり:ウエス作業
- ・幸せの黄色いイベントキャンペーン:毎月11日
- ・京都市でマーケット回収事業:毎月第1・3木曜日
- ・「ひとまち交流館京都」共同管理委員会:毎月最終木曜日
- ・事務局会議:第1・2・4火曜日
- ・華頂女子高校エデュ・コースV講座(講師派遣毎月2回~3回水曜日)
- ・第三者評価審査会・地域密着型審査会
- ・京都府青少年育成会街頭活動
- ・祭準備・実行委員会 祭スタッフ説明会
- ・調査員企画運営委員会 勉強会

【京都ボランティア協会所属委員会】

- 京都府犯罪被害者支援連絡協議会委員
- 京都府犯罪のない安心・安全まちづくり推進本部会議委員
- 京都府市民参画会議委員
- 京都府福祉のまちづくり推進協議会委員
- 京都府社会福祉協議会委員
- 京都府社会福祉協議会理事
- 京都府精神障害者福祉審議会委員
- 京都府高齢者サービス総合調整推進会議委員
- 京都府道づくり検討委員会
- 京都府社会福祉協議会評議委員
- 京都府社会福祉協議会評議委員
- 京都府福祉ボランティアセンター運営委員
- 京都府福祉ボランティアセンター顧問
- 京都府アジェンダ21フォーラム幹事会委員
- 京都市ごみ減量推進会議理事
- 京都市ユニースサービス協会評議員委員
- 京都市障害者スポーツセンター評議員委員
- 京都介護・福祉第三者評価等支援機構委員
- 京都府災害ボランティアセンター委員

